

育苗箱専用殺虫殺菌剤

農林水産省登録
第22562号

Dr.オリゼ[®] フェルテラ[®] 粒剤

クロラントラニリプロール・プロベナゾール粒剤

Dr.オリゼ[®]はMeiji Seika ファルマ(株)の登録商標 フェルテラ[®]、RYNAXYPYR[®]は米国デュポン社の登録商標

育苗箱処理剤は新時代へ
“信頼のDr.オリゼ”と“期待のフェルテラ”のアンサンブル
育苗箱処理に新しい風をおくります



特長

Dr.オリゼフェルテラ粒剤の特長

- 1 発売以来、現地での高い評価を受けている Dr.オリゼ(オリゼメート)と新世代の殺虫剤フェルテラ(通称リナキシビル[®])の混合剤です。
- 2 育苗箱処理することにより、もち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、ニカメイチュウ、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ、イネツトムシを同時防除できます。
- 3 育苗箱当たり50g 施用で、長期間にわたって高い効果を示しますので、省力的、経済的です。

緑化期から
処理できます

イネツトムシに
適用拡大!

Dr.オリゼ[®]フェルテラ[®] 粒剤

Dr.オリゼフェルテラ粒剤の有効成分：クロラントラニリプロール…0.75%・プロベナゾール…24.0% 人畜毒性：普通物※ ※毒劇物に該当しないものを指していう通称

特長

Dr.オリゼフェルテラ粒剤の特長

●歴史と信頼の「Dr.オリゼ」

- ① 植物の防御機構を活性化させることで、卓越した高い効果を発揮する、世界初のプラントディフェンスアクティベーター（植物防御機構活性化剤）です。
- ② 特殊製剤（有効成分の溶出制御）により、育苗箱に処理しても、いもち病に対する長期の残効と水稲に対する安全性が期待できます。
- ③ 育苗箱施用で葉いもちの発病を長期間抑えることにより、穂いもちの感染を防ぐことが期待できます。

●期待の新世代殺虫剤「フェルテラ」

- ① フェルテラは、これまでのどの殺虫剤グループとも異なる、まったく新しい次世代の殺虫剤です。
- ② これまでの殺虫剤と異なる、新しい作用性を有していることから、既存の殺虫剤に抵抗性の発達した系統の害虫に対しても優れた効果を示します。
- ③ フェルテラは害虫の筋肉細胞内にあるリアノジン受容体に結合して筋小胞体のカルシウムイオンを細胞内に放出させます。その結果、害虫は筋萎縮を起こし、速やかに活動を停止し、死に至ります。
- ④ ニカメイチュウ、イネミスゾウムシ、イネドロオウムシ、ツマグロヨコバイ、イネツトムシはもとより、近年発生が多く、防除の難しいフタオビコヤガといった水稲害虫に対し、育苗箱施用で、しかも低薬量で優れた効果を発揮します。

●Dr.オリゼフェルテラ粒剤の適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニリプロールを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	もみ枯細菌病 白葉枯病	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌 約5ℓ) 1箱当り 50g	移植当日	1回	育苗箱の上から均一に 散布する。	1回	2回以内 (育苗箱への処理 及び側条施用は 合計1回以内)
	いもち病 ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ イネドロオウムシ イネミスゾウムシ ニカメイチュウ イネツトムシ		緑化期 ↳ 移植当日				

●Dr.オリゼフェルテラ粒剤の上手な使い方

1箱当り50gを均一に散布してください。

1. 育苗箱当り50gを均一に

育苗箱の苗の上から均一になるように散粒してください。



2. 軽く払って

薬剤散粒後、軽く苗の上半分を払い、葉にひっかかっている薬剤を培土の上に落としてください。



3. 十分に水やり

最後に上から十分に灌水し、薬剤を培土の上に落ち着かせてください。

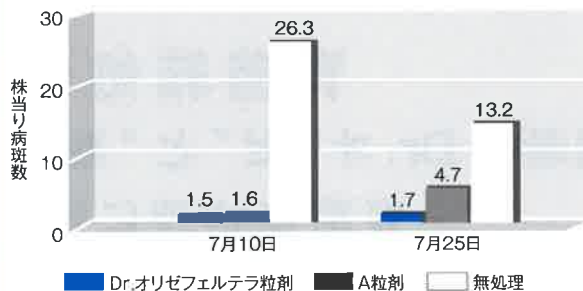


⚠ 安全使用上の注意

- ① 誤食などのないように注意してください。誤って飲み込んだ場合には、吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。
- ② 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- ③ 散布の際は農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- ④ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- ⑤ かぶれやすい体質の人は、作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けてください。
- ⑥ 夏期高温時の使用を避けてください。

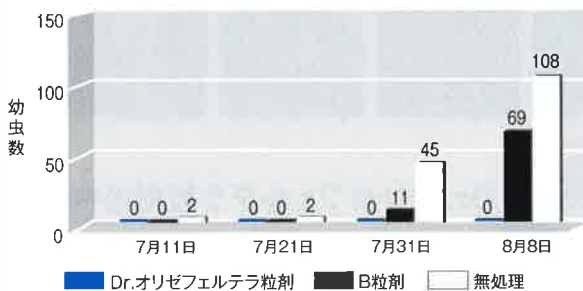
いもち病に対する防除効果

日本植物防疫協会研究所 (中央農業総合研究センター、北陸研究センター協力) <平成19年度>



●病害発生状況：葉いもち(接種)多発生 ●処理月日：5月17日(移植当日50g/箱)
●耕種概要：品種：キヌヒカリ 移植：5月17日 播種：4月24日 出穂：8月8日

フタオビコヤガに対する防除効果 埼玉県植物防疫協会 <平成20年度>



●害虫発生状況：フタオビコヤガ 中発生 ●処理月日：5月29日(移植3日前50g/箱)
●耕種概要：品種：彩のかがやき 移植：6月1日

- 1.使用前にラベルをよく読んでください。
- 2.ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 3.本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
- 4.使用後の空袋は園場などに放置せず、環境に影響のないよう、適切に処理してください。

お問い合わせ／ご注文は

meiji Meiji Seika ファルマ株式会社

東京都中央区京橋 2-4-16
http://www.meiji-seika-pharma.co.jp/

この印刷物の内容は2012年5月現在のものです。 DROF-1 shu120599